



地雷に関する啓発および地雷除去支援のための国際デー
地雷・爆発性危険物撲滅 国連グローバル・アドボケイト メッセージ

New York, 4 April 2021

国連事務総長をはじめとする多くの指導者や活動家、関心をもつ市民の声に加えて、きょう、私の声をお届けできることを大変嬉しく思います。地雷と爆発性残存物を世界からなくすという目標に目を向けるよう、すべての国に呼びかけたいと思います。これには決意が必要です。

パンデミックが影を落とした2020年においても、業務を着実に遂行し、地雷、不発弾、即席爆発装置など、数十万個の爆発物を除去し処理した人々を、私は称賛したいと思います。個人、組織、政府の努力によりこれが可能となりました。

カンボジアには新しい「セーフ・グラウンド (Safe Ground)」ができ、チリは自国の領土から完全に地雷が除去されたことを宣言しました。「対人地雷の使用、貯蔵、生産及び移譲の禁止並びに廃棄に関する条約（オタワ条約）」のすべての締約国が、今後10年のうちにすべての対人地雷を自国の領土から除去することを宣言しました。

しかし新たな爆発物による汚染もあります。先月、シリアでの紛争が始まってから10年の節目を迎えました。この紛争により、何十万人もの人々が亡くなり、何百万人もの人々が避難民となり、何千トンもの爆発物による新たな汚染が生みだされました。争いは止めなくてはなりません。本格的な爆発物除去を広範に開始する必要があります。

古い汚染も残っています。ベトナム戦争が公式に終結したのは45年以上も前のことですが、地雷や爆発物による汚染はいまだに広範囲に及んでいます。

たった一つの地雷が、父を奪い、母を奪い、子どもを奪い、そしてコミュニティを破壊します。

私たちは、個々人やコミュニティが、安全な家、安全な土地、安全な環境で生活できる世界を実現するというビジョンに向かう必要があります。人権、生命、自由、個人の安全が保障され、基本的ニーズが満たされる世界において、爆発物事故の生存者、負傷したり障害を負った人々が誰一人として取り残されることなく、社会の対等な一員として完全に統合された社会を目指すべきです。

4月4日は、「地雷に関する啓発および地雷除去支援のための国際デー」です。このビジョンの達成に向け、みなさんがどのような立場であろうとも、できることから取り組みましょう。